

教育実践研究での教育リソースの資料収集・ 保管の初期（～1970年）の開発研究

後藤 忠彦（岐阜女子大学）

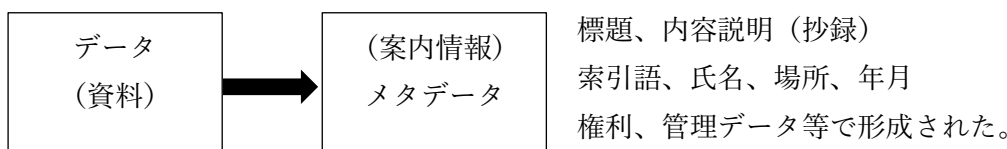
教育リソースとして教育実践研究等の資料収集・保管が1950年代から1970年代にその利用の開発研究が進められた。例えば、アメリカではプロトコールとして教育実践の原記録が始まり、また、アメリカのERIC（Education Resource Information Center）では、教育関係の文献資料の管理・流通が始まり、1966年には検索に役立つシソーラス（Thesaurus of ERIC Descriptor）が公表された。

また、テスト（試験）の資料保管整理のために、教育目標の分類学（タキソノミー）がブルームまで開発が進められた。日本でも教育実践の総合的な収集・保管が始まっている。とくに、1960年代には、コンピュータによるデータ処理の適用を記録した。各種資料の収集・保管の教育開発研究が進みだした。

- ① アメリカでは、教育上重要な意味のある事象の原記録の収集・保管がプロトコールとして始まりだした。スミス（1963年）がプロトコールの重要性・意義を指摘し、1970年にはアメリカ連邦教育局が中心にプロトコール運動が進められた。岐阜では、岐阜大学と松枝小学校との共同研究として、教育実践の総合的な資料収集・保管が始まり（1967年）、その後CMIシステムの開発に発展した。（Data Report133,134）
- ② 教育実践資料の管理・流通がERICで始まり、ERICのシソーラス（ディスクリプター）が公表され、検索に利用されだした。
- ③ ブルーム等がテスト（試験）の管理・整理のため教育目標の分類（タキソノミー1956年）の研究が始まり、後に、形成的評価、総括的評価等へ発展した。
- ④ 学習プログラムの中に提示（教材・学習材）を記入したCAIの開発が1950年代から始まりだした。

2. メタデータの開発研究が始まる。（保管のために）

このような教育リソースの収集が始まると、これを補完・整理するために、各種の分野で資料保管と検索のためにメタデータ（data about data）：案内情報が必要となってきた。



例えば案内情報（メタデータ）として当時（1960年代）の例を次に示す。

- ・ 標題（タイトル）：データの標題が必要
- ・ 内容分類
- ・ 内容の要点（抄録）：データがどのような内容のものであるか要点を記入
- ・ キーワード（索引語）
- ・ 氏名（作者等の氏名）
- ・ 場所（教材・素材・学習材・論文・報告・図書・実物・活動等の存在または保管場所）
- ・ 年月
- ・ 著作権、プライバシー等の権利
- ・ 管理データ：資料番号、ID

その後、教育目標の分類やコード（学習指導要領等を使い）などが検討され、メタデータに使われるようになってきた。

3. シソーラス

教育リソースのメタデータで、同じ事象・事項に対し、複数の記述方法があつては、利用者が検索するとき困る。例えば、老人、高齢者、年寄等が索引語に勝手に入力されだしては、検索結果に影響を及ぼす。

そこで、意味や使い方が統制され、用語と用語の関係を表示するためシソーラスが開発されだした。（シソーラスは1852年に出版されたロジエのシソーラスとして類語辞典として利用された。）（注）統制語でない用語を自然語。

用語の関係の表示としてERICのシソーラスでは、次のような記号で表示されている。

- ① BT (Broader Term)：広義語/上位語と NT (Narrower Term)：狭義語/下位語
見出し語との関係で広義語はBT、狭義語はNTを付けて表示している
- ② UF (Used For) ～の代わりに用いよ、USE代わりに～を用いよ
ある用語と用語が同じ意味関係の場合に同義語としてUF、USEの記号で表示する
- ③ RT (Related Term) (関連語)
階層的な関係ではないが、見出し語との間に密接な関係がある用語をRTを付けて表示する
- ④ SN (Scoop Note)
見出し語の正しい使い方を簡単に説明する

このような関係を示し索引語の利用を支援している。

例	家族制度	大家族制度
	BT 制度	BT 家族制度
	NT 小家族制	RT 家
	NT 大家族制	RT 大家族
	NT 直系家族制	
	NT 夫婦家族制	
	NT 複合家族制	
	RT 隠居	
	RT 家	
	RT 家系	(婦人教育
	・	シソーラスより)
	・	
	・	
	以下省略	